

自然を感じる（体験する）方法は、五感を使う、つながりやかかわりを考えるなどたくさんありますが、形や数、色に注目した方法でも自然を楽しむことができます。

ねらい

自然の中の色や形に加え、数、その他抽象的なものなど、少し異なった視点で自然をみるようになる。

達成目標

- ・形や数、色など指定されたものを自然の中から探し出すことができるようになる。
- ・活動を通して、自然の見方について、新しい発見を言うことができるようになる。



導入

「自然を見るときにどんな所を見ますか？もちろん感じるままに、というのもOKですが、あるものに注目して探しながら歩くと、それまで隠れていたものが見つかることがあります」と言ってワークシートを渡し、形・数・色を指定する。

まとめ

参加者が探してきたものについて紹介し合う。どのようにして見つけたかについても紹介しあおう。

展開

指定された形・数・色と自分らしいものを探しに行く。みつけたものをスケッチする。（持ってこられるものは持ってきてもよい）

実施のポイント

展開の方法はいろいろ。みんなが共通の課題で探す方法、異なった指示が書いてあるカードを参加者が引く方法、二人組みになってお互いに指示しあう方法など。

◆所要時間	1時間
◆人数	4~40人
◆関連科目	国語、理科、算数、図画工作
◆焦点を当てる能力	探す、さわる、書く、描く、見る
◆準備するもの	ワークシート、筆記用具、クリップボード
◆安全のポイント	集合時間や集合場所を明確にする。活動の範囲も具体的に示そう。

評価の視点
珍しいものを探すよりは、自分が感じたことを大切にできることを評価したい。同じ課題でも探してくるものが違うこと、いろいろな形、色、数のものが自然の中にあることなどが取り上げられるとよい。

発展・応用
対象が大人の場合、形・数・色などの課題を複合させると面白い。課題を最初から具体化してあれば、セルフガイドとしても機能する。

参考文献
オリジナル/「山のふるさと村ビジターセンター
平成11年度環境教育活動報告書」

◆ 指定された条件のものを探してスケッチしてみましょう。



年 月 日 名前